

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
新エネルギー委員長 中 島 稔
両団体専務理事 清 原 淳 平

新エネルギー委員会のお知らせ (第319回)

日 時 平成30年2月6日(火) 午後1時半～4時
場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議 題
- 1、最近の再生・新エネルギーについて思う
挨拶 中島稔新エネルギー委員長
 - 2、豚の尿から微生物を利用してメタンガスを製造する技術
解説 細見正明東京農工大学教授
 - 3、『新エネルギー関連ニュース NO. 172』
解説 中島稔新エネルギー委員長

報 告 去る平成29年12月5日開催の第317回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、清原淳平専務理事より、本日の講師・埼玉工業大学秦田勇二教授・海洋研究開発機構大田ゆかりグループリーダー代理の経歴紹介がありました。

次に、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。このところ、燃料電池・蓄電池・電気自動車関連のニュースが目立つようになった。電気自動車の波に遅れていたトヨタも2020年の投入を目指し動いている。また、風力発電から水素を取り出そうとする試みがあったが、残念ながら失敗に

終わった。水素の安全性にはいまだ疑念を抱かれており、再生エネルギーの中では太陽光が一步リードしている状況である。

次に、秦田教授・大田グループリーダー代理より、「海洋性酵素で機能性化学品を生産する技術」と題して解説をいただきました。光の届かない深海で生きる生物は光合成ではなく、浅い海から落ちてくる有機物を分解して生きている。その中には、分解しにくい有機物を分解できる酵素が存在することが分かった。例えば、通常では分解しにくい寒天を分解する酵素がある。寒天を分解すれば医薬品に利用できる。また、食品工業にも応用が可能だ。もう一つ注目しているのが未利用のリグニンを分解し、化石燃料の代替利用をする方法だ。リグニンは木質を構成する高分子で、分解しにくさが木の長寿を支えているが、分解できないため、焼却している。セルロースと違い、リグニンの構造は規則性がなく、複雑である。そこでまず、木材を海中に沈め、数か月後貝類や微生物が木材を分解しているのを発見。その中で最も有望な細菌と酵素の組み合わせによって、リグニンを分解してプラスチックが生成できることが可能と分かった。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.171』の解説がありました。今回は、○リチウムイオン電池の急速放電時の放電低下を抑える添加剤。粉末状のガラス材料を加える。○燃料電池の高性能化に資する非フッ素系電解質膜。○近赤外光で水から水素を発生させることに成功。人工光合成などの応用に期待。○潮流発電に2枚羽の新方式。潮流発電の発電効率43.1%を達成。○次世代太陽電池の変換効率20.5%達成。希少金属を使わず、カリウムを添加した。○藻類から燃料製造を目指す各社の取り組み。○大学内で再生エネルギー100%化を目指す千葉商科大学の取り組み。○家庭の太陽光発電などで余った電気を工場などへ送る電力融通の実証実験。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。
次回、2月6日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp

当日連絡先 080(8836)6203 (重田) 080(9292)2620 (高津)